



宮前 まさみ

2026年1月発行

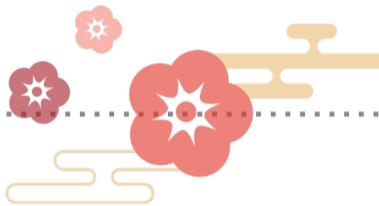
第10号

後援会だより

厳寒の候、皆さまにはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
「宮前まさみ」の活動に、いつも深いご理解と心暖まるご支援をたまわり、感謝申し上げます。

2021年4月に初当選以来、多くの皆さまとお目にかかり、ご要望やお困りごとを直接伺って参りました。見落とされがちなこと、わかつていながらなかなか進まなかつたことを、「一般質問」などを通じて行政にお願いし、少しずつでも改善されるよう、この5年間地道に歩んで参りました。

「自分らしく安心して暮らせる秩父市」を目指し、皆さまと共に更なる改善を積み重ねながら、今後もお役に立てるよう真摯に努めて参ります。



「これからの中の福祉行政に望むこと」

I. 病児保育（病中病後児保育）支援

“病児保育”とは、子どもが病気になった時に家庭保育が困難な保護者に代わって保育士や看護師などが保育看護をする事業です。

一般的に37.5°C以上の発熱がある場合やインフルエンザなどの感染症にかかった場合は、保育園など集団保育の場に子どもを預けることができません。

現在多くのご家庭が共働き世帯であり、非正規雇用の場合は勤務時間が収入に直結しますし、またひとり親世帯も増えています。

特にひとり親世帯に関しては「母子家庭」にとどまらず「父子家庭」も増えているとのお話もあって、各企業における人手不足が改善されない現在、安心して働くための「病児保育支援」は不可欠であると考えます。



以前は祖父母が病気の子どもを見てくれたかもしれません、今はおじいちゃんおばあちゃんも現役で働いていますし、近くに祖父母などの頼れる人がいないご家庭も、数多くいらっしゃいます。

2. 「地域共生社会」に向けて“共助”的強化

11月に発生した「大分大規模火災」の記憶は、まだ皆さまの記憶に新しいと思います。

170軒を超える家屋が被災され、焼け野原になってしまったにも関わらず、お亡くなりになられた方が1名だったのは、“奇跡的”と言えるでしょう。日頃から地域におけるコミュニケーションと、助け合いの精神が生かされた結果だと思います。

隣近所にはどういう方が住んでいてどんな状況なのか、皆さまはご存じですか。

特に支援が必要な高齢者や障がい者、ひとり暮らし、お子さんがまだ小さいなど、様々な状況の中で普段から、お互いに声を掛け合える関係性は築けているでしょうか。

日本中、いつどこで何が起きても、不思議ではない世の中になりました。

地震に強く浸水被害も少ないと言われる秩父地域であっても、懸念材料はたくさんあります。

2019年に起きた国道299号・羊山公園北側法面や、2022年9月の中津川の斜面崩落は、市内の丘陵のどこでも起こりうる“崖崩れ”的可能性を示していますし、日本各地で夏場に起きた原因不明の山林火災も、他人ごとではありません。

朝、子どもの体調が悪いのに、仕事を休めなくて困り果てたり、通園後に熱が出て、園から“お迎え”に来るよう言われて、周りの方々に謝りながら会社を後にしたり…多くの方にご経験があるのでないでしょうか。ご自身も体調不良で、子どもの面倒を見られないことがあるかもしれません。

もちろん病気の子どもにとって、親に面倒見もらうことが一番安心だと、十分に承知しています。ただ、親も頭を下げながら会社を休み、周りの方もその分の仕事が回ってくるため、ついイライラしてしまうなど職場環境の悪化も懸念されるのであれば、「安心して働くため」に、行政としてできることを考えなければならないと思っています。

市から補助金の出る、身近な「ファミリーサポートシステム」では、病気の子どもを預かることはできません。

病気の子どもを一時的に保育・看護することで保護者が安心し、子育てができる環境を整えることは、できないものでしょうか。

…こうしたことが、本来の「子育て支援」に繋がっていくと思います。



地域コミュニティによる助け合いが、被害を最小限に抑えるために重要な役割を果たします。

そしてそのためには「地域共生社会」の実現が求められ、地域住民相互の支えあいによる「共助」…住民同士がお互いの状況を理解し、適切な避難行動につないでいくために、地域サービスを支える「担い手の確保」や地域サービスを支える基盤となる「組織の育成」が必要不可欠です。

民生委員さんにはばかり頼ることなく、災害があった時に誰が誰を助けなければ良いのか。各町会における「避難行動要支援者名簿」「地域福祉計画」を具体的に進め、年に一度の更新を図りながら、“もしもの時”でも、お互いに助け合える地域づくりを、行政と共に推進していかなければと思います。



国道299号線・羊山北側法面(2019年10月)

埼玉県秩父県土整備事務所のHPより
中津川の斜面崩落(2022年10月)

FIND Chichibu(広域秩父産業連携フォーラム) “ちちぶシルク研究分科会”主催 2025年 秋のイベント!

1.「第2回 無料着付け教室」～自分で秩父銘仙を着てみよう!～

9月20日から10月11日までの5日間、浴衣・銘仙の練習会を、宮側町の「ほっとすぽっと秩父館」で行い、16名の方にご参加いただきました。「一人で着られるって嬉しい!」銘仙ファンが着実に増えています。



2.「秩父銘仙を着て、“街歩き”を楽しもう!」

6月21日(土)第4弾 みやのかわナイトバザール 秩父文学祭とのコラボ
10月 5日(日)第5弾 小鹿野町路地スタ小鹿野町学芸員から有形文化財等の説明
11月15日(土)第6弾 横瀬町・東林寺での椅子座禅の後、本格お茶席と秩父音頭を

たくさんの方々にご参加いただきました。着てみるとその楽しさがわかります。それぞれのアイデアで、着こなしも素敵です。ブーツに帽子。日常に溶け込むアレンジも!

3.「第4回 秩父銘仙販売会」 11月1日(土)・2日(日) @秩父市地場産センター2階ロビー

秩父銘仙の織元や伝統工芸士の皆さんとのご協力をいただきながら、地場産センター2階のロビーにて、4回目となる「秩父銘仙販売会」を開催致しました。

今回は秩父銘仙に興味を持たれ、販路拡大のマーケティングやヒアリングに、都内からお越しになった方も多く、今後の展開がとても楽しみです。

「国指定伝統的工芸品・秩父銘仙」の素晴らしさを多くの皆さんに再認識していただき、「秩父の絹文化継承」に向けて、頑張って参ります。

今後とも、FIND Chichibu “ちちぶシルク研究分科会”への応援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



*「令和7年度 秩父市市政功労者表彰(自治功)」受賞!

“地方自治の振興に貢献し、功績顕著な方”として「秩父市表彰規定」に則り、表彰状をいただきました。市民の皆さまのお声を大切に、秩父市が更に安全で暮らしやすい街となるよう、これからも精進して参ります。



「秩父神社の朝清掃」に参加しませんか?

「秩父神社の朝清掃」を毎月一回、満月の朝7時半から実施しています。ご意見やご要望も含め、直接お目にかかるお話を伺う良い機会として、また気持ちよく一日を迎えるために、ぜひお気軽に、朝掃除へのご参加をお待ちしております。

2026年上半年の開催日

1月3日(土)・2月2日(月)
3月3日(火)・4月2日(木)
5月2日(土) / 31日(日)
6月30日(火)



 Facebook・インスタグラムにて
毎日の活動がご覧いただけます。

宮前昌美
で検索!



「宮前まさみ」LINE Officialアカウント
「ちちぶORIHIMEプロジェクト」への登録を
お願い致します。

最新の活動報告や議会情報などに加えて、
「後援会だより」もLINE配信をしております。
年齢・性別を問わず「宮前まさみ」の活動に
ご賛同いただき、ご登録いただければ幸いです。

こちらのQRコードを読み込んで
ご登録ください

